■発行　平成27年10月1日

やりゅうでぇ90

赤れんが商家がつなぐ ひと・まち・歴史 集まれ「あかおかびと」

絵金のまち 赤岡町家再生活用プロジェクト

▲プロジェクトメンバーと学生たち

赤岡のまちのシンボル的建物、赤れんが商家。老朽化が進み、解体される2日前に住民から「何とか残してくれんろうか」の申し出が。ここから始まった、「絵金のまち・赤岡町家再生活用プロジェクト」の活動を紹介します。

担当：広報編集委員　田中たい子

みんなぁでできることから

プロジェクトを立ち上げたのは、高知高専環境都市デザイン工学科の学生たちと指導教員の北山めぐみさん。同科は、土木・建築の幅広い知識を5年間で学ぶ専門コース。指導を行うのは、高知県内外で活躍する建築のプロ。

まず、土間のお掃除から始めました。灰色だった床は、磨くことで元のれんが色が表れ、とても美しい土間がよみがえりました。8月には、取り壊された座敷の床下もおそうじワークショップできれいに。れんがの空間が広がると「すごーい！きれい♪」と参加者から大歓声があがりました。

赤れんが商家の歴史

学生たちは、商家のことを知るためさまざまな人に話を聞きました。

この家は、初代村長小松与右衛門（1845年生まれ）の旧邸。幕末には酒造業、大正期には誂え靴屋、昭和期にはタバコ靴屋と、住む人も時代も変わる様子を長年見守り続けてきたこの商家。

一昨年の台風で屋根に大きな穴が開き、水切り瓦がボロボロになった部分も。修復のために構造を調べたり、家の中に残された道具を調べることで昔の人の暮らしぶりや、エコに対する考え方や工夫を凝らした家づくりの技術などが分かってきました。

あかおかわらばん

プロジェクトメンバーと学生たちが6月から始めた手作り新聞は、読めば読むほど、活動の大変さ、楽しさが伝わってきます。

6月には岡山からのお客様に「産業観光ツアーin赤岡」で赤岡のまちあるきを行った記事。絵金蔵や酒蔵、おじゃこ屋さんや皿鉢料理など、高知らしさが人気で、大変喜ばれました。また、建築家の沖野誠一さんが主宰する「土と木から学ぶ和の暮らし」が、この商家を舞台に数々のイベントを開催し、学生や希望者だけでなく地域の人にも、どんどん参加してもらいたいと意気込んでいます。10月11日には赤岡まちづくりに20年取り組んでこられた延藤安弘さん（NPOまちの縁側育み隊代表理事）による幻燈会も企画されています。

赤岡に残る町家を再生・活用し、地域を元気にすることを目指すことがこのプロジェクトの目標です。「赤れんが商家」に目を向けてもらうことで、多くの人がその価値を見直し、残せる方法を「みんなぁで一緒に考えていきたい」。というメッセージがかわらばんに込められています。

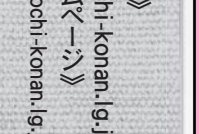
皆さんも、ぜひ参加してみませんか？

◀残された靴型

◀みんなで掃除

◀赤れんがの床

◀天井の撤去



◀古いかき氷機を復活

▲北山めぐみさん

※「あかおかわらばん」の入手およびお問合せ：高知工業高等専門学校環境都市デザイン工学科　北山めぐみ　088-864-5583　kitayama@ce.kochi-ct.ac.jp

※本プロジェクトは、公益信託大成建設自然・歴史環境基金、ハウジングアンドコミュニティ財団の助成、高知県建築士会青年委員会の後援により行われています。

セアカゴケグモにご注意を！

9月3日(木)から16日にかけて吉川町吉原でセアカゴケグモの成体約60匹を発見し、駆除しました。

セアカゴケグモは人体に有害な毒を持っていますが、素手で直接触るなどしなければ咬まれることはありません。庭の手入れなどする際は手袋をはめて作業をしてください。

咬まれたときは、温水や水で洗い流し、できるだけ早く医療機関で受診し「セアカゴケグモに咬まれた」ことを告げて治療を受けて下さい。

発見した場合は、殺虫剤（ピレスロイド系）をかけるか靴で踏みつぶして駆除をお願いします。卵のうには殺虫剤の効果は薄いので、踏みつぶすか焼却して駆除をお願いします。

また、発見した場合は環境対策課までご連絡をお願いします。

☎57-8508

広報紙 スマホで広報を見よう

i広報紙アプリのダウンロードはこちらから

《広報へのメール》
kouhou@city.kochi-konan.lg.jp
《香南市のホームページ》
http://www.city.kochi-konan.lg.jp

■編集　香南市広報編集委員会（市役所総務課広報広聴係）
〒781-5292 高知県香南市野市町西野2706 Tel.0887-56-0511 ■印刷（株）高知新聞総合印刷